

「理解」よりも「納得」を目指す

校長 白澤 道夫

つい1ヶ月前まで、年始めだったとは思えない程、時の早さを感じるこの頃です。もう2月です。職員一同、子どもたちに今年度最後の「仕上げ」を進めていきます。

さて、学校での学びは、教師と子ども、または子ども同士の「かかわり合い」等とおして行われるものだと考えています。しかし、新型コロナウイルスによる影響は、人同士のかかわり合いを分断しました。その影響は、未だに学校教育に暗い影を落としていると思います。（今後は、次第に回復していくと思います。）

私は、人同士のかかわり合いは、幸せな人生を送るためには不可欠だと考えています。なぜなら、人は不完全な生き物だからです。不完全であるからこそ、他者とかかわり、強みや弱みを相互に補完し合いながら、よりよい未来を目指すのだと確信しています。

しかし、そのかかわり合いには「質」があると思います。

かかわり合いの「質」におけるキーワードが、タイトルにある「理解」と「納得」です。それぞれの言葉の意味は、下記のとおりです。

理解 … 物事の筋道や理由を考えて正しく知ること

納得 … 理解して、承知すること ※承知…聞き入れること、同意すること

※三省堂国語辞典（第七版）より

私は、これまでの経験から、「理解」は個人でできること、「納得」は相手（相手が表現したことを含む）がいてできることだと考えます。

相手の願いや希望、考えや主張について、その内容や理由を正しく知った上で、自分の願いや希望、考えや主張と比較して、聞き入れる（または同意する）ことは、現在求められている「よりよい人間性」「よりよく学ぶ姿」そのものです。

（実際に、このようなことを求めて、学校では、日々の学習活動が行われています。）

「納得」には、単純な二者択一論（善し悪し）ではなく、様々な見方や考え方、つまり多様性を認めた上で、「(自分は) どう考え、判断し、言動に表す」ことを含んだ、自身の生き方そのものが問われている意味があるのではないのでしょうか。

こう考えると、冒頭の「仕上げ」を「納得（した姿）」と捉え直すことができます。

私が、残り2ヶ月で目指す子どもたちの「仕上げ」は、以下のとおりです。

「授業やその他の学習で理解した知識や技能を活用しながら、友達や教師とかかわり合い、自分にとっても相手にとっても『よりよい結果』を出すことを目指す姿」

この場合、自分を優先するか、相手を優先するか意見が分かれるところですが、私自身は「相手を優先」すべきだと考えます。それは、他者を知ることによって自分を知ることができるという、私自身の生き方のポリシー（納得できた主張）でもあるのです。